



2025年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年11月12日

上場会社名 粧美堂株式会社 上場取引所 東
コード番号 7819 URL <https://www.shobido-corp.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺田 正秀
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 斉藤 政基 (TEL) 03-3472-7890
定時株主総会開催予定日 2025年12月19日 配当支払開始予定日 2025年12月5日
有価証券報告書提出予定日 2025年12月18日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年9月期の連結業績(2024年10月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期	22,122	5.7	1,469	45.5	1,478	52.7	977	26.4
2024年9月期	20,919	2.3	1,010	16.2	967	△0.4	773	62.8

(注) 包括利益 2025年9月期 1,200百万円(79.6%) 2024年9月期 668百万円(47.9%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年9月期	74.03	—	14.0	9.6	6.6
2024年9月期	58.59	—	12.1	6.5	4.8

(参考) 持分法投資損益 2025年9月期 一百万円 2024年9月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年9月期	16,321	7,810	45.5	561.58
2024年9月期	14,427	6,575	45.6	497.78

(参考) 自己資本 2025年9月期 7,418百万円 2024年9月期 6,575百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年9月期	918	214	△507	4,329
2024年9月期	832	△395	△811	3,725

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年9月期	—	10.00	—	12.00	22.00	290	37.5	4.5
2025年9月期	—	11.50	—	16.50	28.00	369	37.8	5.3
2026年9月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00		42.6	

3. 2026年9月期の連結業績予想(2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	23,000	4.0	1,600	8.9	1,550	4.9	930	△4.9	70.40

(注) 年次で業績を管理しているため、通期業績予想のみ開示いたします

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社 (社名)株式会社ピコモンテ・ジャパン、除外 1社 (社名)ビューティードア株式会社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)
① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数

2025年9月期	13,410,000株	2024年9月期	13,410,000株
2025年9月期	200,227株	2024年9月期	200,227株
2025年9月期	13,209,773株	2024年9月期	13,209,773株

(参考) 個別業績の概要
1. 2025年9月期の個別業績 (2024年10月1日～2025年9月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期	20,493	2.7	1,205	45.5	1,351	47.7	874	26.7
2024年9月期	19,948	3.5	828	△4.5	914	△12.5	690	△0.3

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期	66.21	—
2024年9月期	52.25	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年9月期	16,069	7,693	47.9	582.44
2024年9月期	14,720	6,928	47.1	524.47

(参考) 自己資本 2025年9月期 7,697百万円 2024年9月期 6,928百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です
※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信 (添付資料) 5ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
3. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(表示方法の変更)	14
(企業結合等関係)	14
(セグメント情報等)	17
(1株当たり情報)	19
(重要な後発事象)	19

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度(2024年10月1日～2025年9月30日)におけるわが国経済は、インバウンド需要の回復や雇用環境の改善などを背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、米国の関税措置の動向や中東・ウクライナ情勢、中国の景気減速、為替変動および物価上昇などが消費者マインドに影響を与え、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、企業経営を取り巻く環境は、原材料価格、人件費、物流費、市中金利の上昇に伴う金融費用の増加など、引き続き厳しいものとなりました。

当連結会計年度においては、近年推進してきた商品戦略を中心とする施策を継続した結果、利益率が大幅に改善し、14年ぶりに過去最高益を更新致しました。これにより、5期連続で増収増益(営業利益ベース)を達成することができました。この利益成長を支えた主因は、「Only 粧美堂」にこだわったモノづくりの定着であると分析しております。具体的には、NB(ナショナルブランド)ビジネスでは、メイクツール、キャラクターコスメ、キッズコスメなど、「粧美堂と言えば」を象徴するカテゴリーに注力し、自社企画商品の総合的な商品力を強化することで、「粧美堂」ブランドの価値向上を図りました。

一方、PB(プライベートブランド)ビジネスでは、新たな生産協力拠点の開拓により、コスト削減・品質向上・商品カテゴリーの拡充を進め、重点販売先のニーズに的確に応えることで、「モノづくりのパートナー」としての地位を強化致しました。その結果、消費者からの支持が高まり、商品単価および利益率の上昇につながりました。

組織面では、ECチームを商品企画部に移管し、消費者ニーズに迅速に対応できる体制を構築しました。これにより、魅力ある商品の企画・開発を加速させ、EC経由の売上拡大および利益率向上を目指しております。また、前年度に発足した全社横断のDX推進室を中心に、社内DX化を加速させることで、生産性向上と商品開発力の強化を推進しております。

さらに、今期はグループ会社の再編を実施致しました。化粧品製造販売業を営む株式会社ピコモンテ・ジャパンの株式の一部を2025年1月10日に取得し、子会社化致しました。一方、連結子会社であるビューティードア株式会社については、化粧品製造の川上工程におけるノウハウ吸収および当社グループへの商品供給を目的として2020年に買収致しましたが、キャパシティ面の制約などにより当初想定していたシナジー効果が十分に得られなかったことから、全株式を譲渡致しました。この再編により、資本コストを意識した効率的なグループ経営体制の構築が進むものと期待しております。

当連結会計年度の売上高は22,122,189千円(対前期比5.7%増)となり、売上総利益は7,064,156千円(同28.3%増)と増収増益を達成しました。

自社企画商品の好調や販売単価の上昇、高利益率のEC販売の拡大により、売上総利益率は31.9%(対前期比5.6ポイント増)と大幅に改善致しました。販売費及び一般管理費は、販売促進費や物流費の増加により5,594,670千円(対前期比24.5%増)となりましたが、売上総利益の増加により吸収し、営業利益は1,469,486千円(同45.5%増)、経常利益は1,478,074千円(同52.7%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に中国のコンタクトレンズ関連の連結子会社(孫会社)の出資持分の一部を売却したことによる売却益97,814千円を計上した特殊要因が剥落したものの、ビューティードア株式会社の株式譲渡に係る売却益64,562千円の計上もあり、977,908千円(同26.4%増)となりました。

当社グループの事業セグメントは、「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおり、単一の事業セグメントであります。取扱い商品を区分した売上高の概況は次のとおりであります。

(化粧品)

当分類には、メイク関連化粧品、ネイル関連化粧品、ヘアケア関連化粧品などの売上が含まれます。当連結会計年度の売上高は、NB商品を中心に人気キャラクターをあしらったフェースマスクやハンドクリーム、大手食品会社とコラボレーションしたリップクリームなどが好調に推移したことに加え、株式会社ピコモンテ・ジャパンの化粧品売上の寄与もあり8,850,388千円(対前期比9.2%増)と増収となりました。

(化粧雑貨)

当分類には、メイク関連雑貨、ネイル関連雑貨、ヘアケア関連雑貨などの売上が含まれます。当連結会計年度の売上高は、キャラクターをあしらった雑貨類や大手食品会社とコラボレーションしたヘアケア雑貨などは好調に推移しましたが、一部の量販店向けで採算が取れないと判断した商材の導入を見送った影響もあり全体としては6,976,972千円(対前期比1.0%増)と微増となりました。

(コンタクトレンズ関連)

当分類には、コンタクトレンズ、コンタクトレンズケア用品の売上が含まれます。当連結会計年度の売上高は、前期の中国孫会社におけるコンタクトレンズE Cビジネスの撤退の影響で2,244,395千円（対前期比10.5%減）と対前期比では大幅減となりました。

(服飾雑貨)

当分類には、バッグ、ポーチ・ケース、サイフ類、その他服飾小物などの売上が含まれます。当連結会計年度の売上高は、キャラクターをあしらった一部販売先向けやテーマパーク向けのP B商品がバッグ、ポーチ類を中心に好調に推移し2,792,328千円（対前期比24.6%増）となりました。

(その他)

当分類には、ペット用品を含む生活雑貨、文具、行楽用品、ギフト商品などの売上が含まれます。当連結会計年度の売上高は、ペット関連商材が引き続き好調に推移した効果もあり1,258,104千円（対前期比8.6%増）と増収となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,893,784千円増加し、16,321,257千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1,827,078千円増加し、12,158,913千円となりました。

これは主に、営業活動によるキャッシュ・フローの獲得、2025年1月10日付で株式会社ピコモンテ・ジャパンを連結子会社化したこと、2025年6月30日付で連結子会社であるビューティードア株式会社の全株式を譲渡したこと等により現金及び預金が747,866千円、売掛金が320,366千円、商品及び製品が419,810千円、為替相場の変動等により為替予約が221,175千円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて66,706千円増加し、4,162,344千円となりました。

これは主に、無形固定資産のその他が67,916千円、投資有価証券が288,873千円増加したことに対し、ビューティードア株式会社の全株式を譲渡したこと等により、有形固定資産が196,379千円、のれんが152,861千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて658,679千円増加し、8,510,633千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて473,710千円増加し、5,959,770千円となりました。

これは主に、買掛金が201,881千円、短期借入金が100,000千円、未払法人税等が405,260千円、その他が290,559千円増加したことに対し、電子記録債務が673,446千円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて184,968千円増加し、2,550,863千円となりました。

これは主に、長期借入金が179,379千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,235,105千円増加し、7,810,624千円となりました。

これは主に、利益剰余金が667,480千円、繰延ヘッジ損益が146,826千円、株式会社ピコモンテ・ジャパンの連結子会社化により非支配株主持分が392,235千円増加したこと等によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は604,065千円増加し、4,329,946千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、918,003千円（対前期比10.3%増）となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益を1,542,636千円計上するとともに、減価償却費224,417千円、未払金の増加121,833千円があったこと、売上債権の増加△243,181千円、棚卸資産の増加△196,826千円、仕入債務の減少△326,724千円、法人税等の支払額△311,214千円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、214,402千円（前期は395,718千円の支出）となりました。

これは主に、投資有価証券の償還による収入220,000千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入329,902千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入344,982千円があったこと、有形固定資産の取得による支出△101,437千円、投資有価証券の取得による支出△495,252千円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、507,744千円（対前期比37.4%減）となりました。

これは主に、長期借入れによる収入1,700,000千円があったこと、短期借入金の純減少額△350,000千円、長期借入金の返済による支出△1,546,280千円、配当金の支払額△310,407千円があったこと等によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期
自己資本比率（％）	36.6	39.9	40.8	45.6	45.5
時価ベースの自己資本比率（％）	40.2	36.7	42.3	50.0	74.8
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	9.6	15.6	162.6	5.7	5.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	22.8	14.2	1.1	26.0	21.2

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

（注）１．株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数により算出しております。

２．キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

３．有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうちの利子を支払っているすべての負債を対象としております。

(4) 今後の見通し

当社は、おかげさまで今期まで5期連続増収増益（利益は営業利益ベース）3期連続増配とすることができました。その過程において非効率な業務推進体制を改め商品SKUやお取引先の数を絞り込むなど選択と集中を進めることで企業体質を強化してまいりました。一方でここ数年注力してきた商品力強化が結実したことで売上総利益率が大幅に改善し14年ぶりに過去最高益を更新致しました。

これは一時的な要因によるものではなく、「Only 粧美堂」にこだわったモノづくりの定着、組織改革、個社別採算管理の導入など、複合的な施策が噛み合った結果であると認識しております。

「当社でしか作れないものを創出しなければ価格競争に巻き込まれる」という方針のもと、商品企画部を中心に独自性を追求してまいりました。その成果として、ヒートカーラーや束感シリーズなど、当社のブランドを象徴するヒット商品が生まれ、ナショナルブランド（NB）事業は72億円規模へと拡大しました。加えて、EC事業は約40%の成長率を達成し、デジタル販売領域においても確実な成果を上げております。

また、キャラクタービジネスにおいては、「サンリオ」や「ちいかわ」を中心とした定番の人気キャラクターに加え、「セボンスター」などお菓子系IPの活用や「ブラインドコスメ」といった新カテゴリーの創出を実現し、トレンドを的確に捉えた商品展開を推進しております。

組織面では、現場社員に権限を委譲し社員一人ひとりが利益責任を持つ体制を整備致しました。あわせて成果主義への転換を進め、インセンティブ制度を拡充することで、業績向上とモチベーションの両立を図っております。この意識改革の定着が、5期連続の増収増益（営業利益ベース）という成果につながりました。

一方で、成長を持続的なものとするために以下の課題認識を有しております。

(ブランド価値のさらなる向上とモノづくりの深化)

当社の強みである「企画・デザイン・品質の一貫開発体制」を活かし、独自性・機能性・デザイン性を兼ね備えた高付加価値商品の開発を推進します。単なる低価格競争から脱却し、消費者に「粧美堂らしさ」を感じていただける商品を創出することで、ブランドのプレミアム価値を高めます。また、トレンドの先を見据えた商品企画力を磨き、「Only 粧美堂」というブランドポジションを確立してまいります。

(NBとPBの両輪による成長モデルの確立)

NBで培った開発力・スピード感・品質管理ノウハウをPB提案に活かし、主要取引先の多様なニーズに応えることで取引基盤を強化します。同時に、PB事業を通じて得られた市場情報や消費者トレンドをNB開発へ還元し、相互補完的な事業構造を形成します。これにより、両事業のシナジーを最大化し、安定的な収益成長とリスク分散の両立を図ります。

(EC・デジタル販売の拡大とDX推進)

EC専売商品や高機能・高単価商品の開発を強化し、オンラインでしか得られない購買体験を提供することで、新たなファン層の開拓を進めます。また、SNSや動画配信などを活用した情報発信を通じてブランドとのエンゲージメントを高めます。さらに、DX推進室を中心にデータ分析・在庫最適化・業務効率化を進め、商品企画から販売までのプロセスをデジタルで統合し、意思決定の迅速化と生産性向上を実現します。

(経営資源の最適化と収益体質の強化)

グループ会社の再編や事業ポートフォリオの見直しを継続的にを行い、成長分野への選択と集中を徹底します。資本コストを意識した効率的な資源配分を行い、持続的な営業利益率向上を目指します。また、サプライチェーン全体の効率化、物流・生産コストの削減、在庫回転率の改善を進め、変化に強い経営基盤を構築してまいります。

当社グループは、これまで培ってきた独自の企画力・商品開発力・機動力を最大限に発揮し、「Only 粧美堂」ならではの価値を継続的に提供してまいります。

引き続き、株主・投資家の皆様のご期待にお応えできるよう、持続的な成長と企業価値の向上を目指して邁進してまいります。

以上を踏まえ、通期の連結業績見通しについては、売上高23,000,000千円（対前期比4.0%増）、営業利益1,600,000千円（対前期比8.9%増）、経常利益1,550,000千円（対前期比4.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益930,000千円（対前期比4.9%減）を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、日本基準で連結財務諸表を作成しております。

なお、国際会計基準（IFRS）の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、今後適切に対応していく方針です。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当連結会計年度 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,982,079	4,729,946
受取手形	3,919	—
電子記録債権	334,699	389,702
売掛金	2,960,013	3,280,379
有価証券	220,000	280,000
商品及び製品	1,816,241	2,236,051
原材料及び貯蔵品	245,819	241,198
為替予約	404,447	625,622
その他	369,497	379,392
貸倒引当金	△4,881	△3,379
流動資産合計	10,331,835	12,158,913
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	902,055	784,848
土地	1,307,893	1,246,093
その他（純額）	127,165	109,793
有形固定資産合計	2,337,115	2,140,736
無形固定資産		
のれん	172,854	19,992
その他	31,774	99,690
無形固定資産合計	204,628	119,683
投資その他の資産		
投資有価証券	1,176,241	1,465,115
退職給付に係る資産	196,607	214,377
その他	181,551	227,824
貸倒引当金	△505	△5,393
投資その他の資産合計	1,553,894	1,901,924
固定資産合計	4,095,637	4,162,344
資産合計	14,427,472	16,321,257

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当連結会計年度 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
電子記録債務	1,030,478	357,031
買掛金	845,947	1,047,828
短期借入金	1,300,000	1,400,000
1年内返済予定の長期借入金	1,394,000	1,478,984
未払法人税等	64,902	470,162
契約負債	22,382	52,992
賞与引当金	151,138	185,000
その他	677,211	967,771
流動負債合計	5,486,059	5,959,770
固定負債		
長期借入金	2,014,500	2,193,879
繰延税金負債	105,580	158,197
役員退職慰労引当金	148,630	161,310
資産除去債務	71,838	32,746
その他	25,345	4,730
固定負債合計	2,365,894	2,550,863
負債合計	7,851,954	8,510,633
純資産の部		
株主資本		
資本金	545,500	545,500
資本剰余金	264,313	264,313
利益剰余金	5,372,114	6,039,594
自己株式	△81,071	△81,071
株主資本合計	6,100,856	6,768,336
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	87,996	137,781
繰延ヘッジ損益	249,761	396,587
為替換算調整勘定	136,904	115,683
その他の包括利益累計額合計	474,662	650,052
非支配株主持分	—	392,235
純資産合計	6,575,518	7,810,624
負債純資産合計	14,427,472	16,321,257

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
売上高	20,919,562	22,122,189
売上原価	15,415,097	15,058,032
売上総利益	5,504,464	7,064,156
販売費及び一般管理費		
販売促進費	565,316	772,039
物流費	1,108,451	1,292,773
貸倒引当金繰入額	△1,000	20
給料手当及び賞与	1,133,226	1,375,526
賞与引当金繰入額	142,488	217,100
退職給付費用	29,223	11,741
役員退職慰労引当金繰入額	20,680	12,680
その他	1,496,022	1,912,789
販売費及び一般管理費合計	4,494,407	5,594,670
営業利益	1,010,056	1,469,486
営業外収益		
受取利息	22,599	20,295
受取配当金	3,994	4,144
受取手数料	7,496	8,946
不動産賃貸収入	10,523	9,722
為替差益	—	25,319
その他	13,568	4,410
営業外収益合計	58,181	72,839
営業外費用		
支払利息	27,733	38,903
為替差損	56,430	—
出資金評価損	—	14,545
その他	16,254	10,801
営業外費用合計	100,417	64,250
経常利益	967,821	1,478,074
特別利益		
投資有価証券売却益	8,015	—
関係会社株式売却益	—	64,562
関係会社出資金売却益	97,814	—
特別利益合計	105,829	64,562
特別損失		
投資有価証券売却損	4,869	—
特別損失合計	4,869	—
税金等調整前当期純利益	1,068,781	1,542,636
法人税、住民税及び事業税	270,578	602,442
法人税等調整額	23,513	△85,325
法人税等合計	294,091	517,116
当期純利益	774,690	1,025,520
非支配株主に帰属する当期純利益	723	47,611
親会社株主に帰属する当期純利益	773,966	977,908

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
当期純利益	774,690	1,025,520
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18,148	49,784
繰延ヘッジ損益	△145,845	146,826
為替換算調整勘定	21,494	△21,221
その他の包括利益合計	△106,202	175,390
包括利益	668,487	1,200,910
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	667,818	1,153,299
非支配株主に係る包括利益	668	47,611

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	545,500	264,313	4,892,569	△81,071	5,621,310
当期変動額					
剰余金の配当			△290,615		△290,615
親会社株主に帰属する当期純利益			773,966		773,966
連結範囲の変動			△3,805		△3,805
連結子会社株式の取得による持分の増減					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	479,545	—	479,545
当期末残高	545,500	264,313	5,372,114	△81,071	6,100,856

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	69,847	395,607	119,818	585,273	93,560	6,300,143
当期変動額						
剰余金の配当						△290,615
親会社株主に帰属する当期純利益						773,966
連結範囲の変動						△3,805
連結子会社株式の取得による持分の増減						—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	18,148	△145,845	17,086	△110,610	△93,560	△204,170
当期変動額合計	18,148	△145,845	17,086	△110,610	△93,560	275,374
当期末残高	87,996	249,761	136,904	474,662	—	6,575,518

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	545,500	264,313	5,372,114	△81,071	6,100,856
当期変動額					
剰余金の配当			△310,428		△310,428
親会社株主に帰属する当期純利益			977,908		977,908
連結範囲の変動			—		—
連結子会社株式の取得による持分の増減					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	667,480	—	667,480
当期末残高	545,500	264,313	6,039,594	△81,071	6,768,336

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	87,996	249,761	136,904	474,662	—	6,575,518
当期変動額						
剰余金の配当						△310,428
親会社株主に帰属する当期純利益						977,908
連結範囲の変動						—
連結子会社株式の取得による持分の増減					344,624	344,624
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	49,784	146,826	△21,221	175,390	47,611	223,001
当期変動額合計	49,784	146,826	△21,221	175,390	392,235	1,235,105
当期末残高	137,781	396,587	115,683	650,052	392,235	7,810,624

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,068,781	1,542,636
減価償却費	203,795	224,417
のれん償却額	28,809	28,271
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,000	3,384
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,162	30,612
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	20,680	12,680
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△2,951	△17,770
受取利息及び受取配当金	△26,593	△24,439
支払利息	27,733	38,903
関係会社株式売却益	—	△64,562
出資金評価損	—	14,545
関係会社出資金売却益	△97,814	—
売上債権の増減額 (△は増加)	429,699	△243,181
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△203,076	△196,826
未収入金の増減額 (△は増加)	△10,735	24,398
仕入債務の増減額 (△は減少)	181,254	△326,724
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△10,053	83,209
未払金の増減額 (△は減少)	△124,214	121,833
その他	△34,056	△29,312
小計	1,448,096	1,222,075
利息及び配当金の受取額	27,177	27,750
利息の支払額	△32,045	△43,223
法人税等の支払額	△611,415	△311,214
法人税等の還付額	240	22,615
営業活動によるキャッシュ・フロー	832,052	918,003
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	913,551	—
有形固定資産の取得による支出	△190,300	△101,437
無形固定資産の取得による支出	△20,255	△79,826
投資有価証券の取得による支出	△1,300,980	△495,252
投資有価証券の売却による収入	58,507	—
投資有価証券の償還による収入	100,000	220,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	329,902
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	344,982
連結の範囲の変更を伴う関係会社出資金の売却による収入	37,349	—
その他	6,408	△3,967
投資活動によるキャッシュ・フロー	△395,718	214,402
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	400,000	△350,000
長期借入れによる収入	800,000	1,700,000
長期借入金の返済による支出	△1,719,000	△1,546,280
配当金の支払額	△290,718	△310,407
その他	△1,393	△1,057
財務活動によるキャッシュ・フロー	△811,111	△507,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,097	△20,595
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△362,680	604,065
現金及び現金同等物の期首残高	4,088,562	3,725,881
現金及び現金同等物の期末残高	3,725,881	4,329,946

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「流動資産」の「受取手形」に含めておりました「電子記録債権」は、受取手形の残高がないため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。また、「流動負債」の「支払手形及び買掛金」に含めておりました「電子記録債務」は明瞭性を高める観点から、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「受取手形」に表示していた338,618千円は「受取手形」3,919千円、「電子記録債権」334,699千円として、「流動負債」の「支払手形及び買掛金」1,876,425千円は、「電子記録債務」1,030,478千円、「買掛金」845,947千円として組替えております。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2024年12月20日開催の取締役会において、株式会社ピコモンテ・ジャパン（以下「ピコモンテ社」）の株式を取得して子会社化することを決議しました。また、2025年1月10日付で株式を取得したことにより子会社化しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業内容

被取得企業の名称 株式会社ピコモンテ・ジャパン

事業の内容 化粧品OEM・ODM、化粧品輸入代行、化粧品自社商品販売、化粧品容器販売

(2) 企業結合を行った主な理由

ピコモンテ社は2013年9月に化粧品・医薬部外品などの輸入代行業務を行う企業として設立され、現在は化粧品のOEM製造受託業務を主体に、化粧品輸入代行、化粧品容器の製造受託も手掛けています。

ピコモンテ社とは、当社の化粧品の開発を共に進めることで取引関係を深めてきました。当社のモノづくりをよく把握しており、製造販売業、輸入代行業の豊富な経験とノウハウを持ち合わせているピコモンテ社が当社グループに加わることで、化粧品の企画、調達面の強化、加えて他カテゴリーでのノウハウの拡大により当社商品の付加価値向上に寄与していくものと考えております。

(3) 企業結合日

2025年1月10日（みなし取得日2025年1月1日）

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

52%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2025年1月1日から2025年9月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	400,000 千円
-------	----	------------

取得原価	400,000 千円
------	------------

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

デューデリジェンス費用等 5,700千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

26,656千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

3年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1,502,244 千円
固定資産	46,784 千円
資産合計	1,549,028 千円
流動負債	720,418 千円
固定負債	110,643 千円
負債合計	831,061 千円

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

(事業分離)

子会社株式の譲渡

当社は、2025年6月17日開催の取締役会決議に基づき、同日付で連結子会社であるビューティードア株式会社（以下「BD」）の全株式を株式会社BISCOに譲渡する旨の株式譲渡契約書を締結し、2025年6月30日に株式譲渡を行いました。これに伴い、BDは当社の連結子会社から除外しております。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

株式会社BISCO

(2) 分離した事業の内容

主に化粧品・医薬部外品の受託製造

(3) 事業分離を行った主な理由

当社は化粧品・医薬部外品の製造設備、製造ノウハウを取得する事を目的に2020年10月にBDを連結子会社化しましたが、想定したシナジーの成果を十分には得られないと判断し、同社の全株式を譲渡致しました。

本件譲渡により、経営資源の選択と集中を図ることで、当社グループの経営基盤強化を行い、企業価値を更に高められるものと考えております。

(4) 事業分離日

2025年6月30日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

64,562千円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	212,466千円
固定資産	194,982千円
資産合計	407,448千円
流動負債	103,681千円
固定負債	39,752千円
負債合計	143,433千円

(3) 会計処理

当該譲渡株式の連結上の帳簿価額と売却価額との差額を「関係会社株式売却益」として特別利益に計上しております。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメント

当社グループの事業セグメントは、単一セグメントであるため、該当事項はありません。

4. 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高	434,801千円
営業利益	6,947千円

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社グループは、化粧品、化粧雑貨、服飾雑貨、キャラクター雑貨及びコンタクトレンズ関連等の商品を幅広く取扱っており、これらの商品を小売業者、卸売業者等へ販売しております。取扱い商品は多種多様ですが、商品の調達方法及び販売方法等については概ね同一であることから単一の事業セグメントとすることが、過去の業績を理解し、将来キャッシュ・フローの予測を適切に評価でき、事業活動の内容及び経営環境に関して適切な情報提供につながると判断できるため、単一の報告セグメントとしております。

この報告セグメントは、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するため、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

当社グループは、報告セグメントが単一であるため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当社グループは、報告セグメントが単一であるため、記載を省略しております。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

当社グループは、報告セグメントが単一であるため、記載を省略しております。

(関連情報)

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

1. 商品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	化粧品	化粧雑貨	コンタクトレンズ 関連	服飾雑貨	その他	合計
外部顧客への売上高	8,105,310	6,907,030	2,508,390	2,240,695	1,158,136	20,919,562

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
株式会社セリア	2,875,328	—
株式会社ドン・キホーテ	2,285,370	—

(注) 当社グループは単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

1. 商品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	化粧品	化粧雑貨	コンタクトレンズ 関連	服飾雑貨	その他	合計
外部顧客への売上高	8,850,388	6,976,972	2,244,395	2,792,328	1,258,104	22,122,189

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が、連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
株式会社セリア	2,996,073	—
株式会社ドン・キホーテ	2,569,708	—

(注) 当社グループは単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

のれんの償却額は28,809千円、未償却残高は172,854千円であります。

当社グループの報告セグメントは単一であるため、報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報は記載しておりません。

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

のれんの償却額は28,271千円、未償却残高は19,992千円であります。

当社グループの報告セグメントは単一であるため、報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報は記載しておりません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり純資産額	497.78円	561.58円
1株当たり当期純利益	58.59円	74.03円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	773,966	977,908
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	773,966	977,908
普通株式の期中平均株式数(株)	13,209,773	13,209,773

(重要な後発事象)

該当事項はありません。